



ミニトマト編

病害虫注意報 2025年1月号



※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。

疫病・灰色かび病特集

疫病

多発条件：

低温多湿の条件下で発生が多くなる。

症状・注意点：

初め灰緑色水浸状で、次第に暗褐色大型病斑になる。多湿時には、表面に白色のかびを生ずる。感染～発病が短く、**短期間で被害が拡大しやすい。**



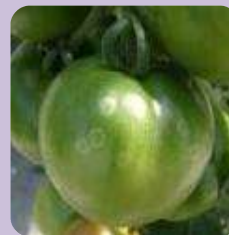
灰色かび病

多発条件：

気温20℃位のやや低温、多湿条件下で発生が多くなる。

症状・注意点：

花弁・果実・葉・茎に灰色のかびが発生する。果実にはゴーストスポットと呼ばれる白色円形の小斑点が生じる場合もある。



今月のおすすめローテーション

対象病害虫によって希釈倍数が異なる場合があります。ラベルの確認をしてから使用してください。

時期	RAC	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	使用時期	回数	影響日数 マルハバチ
1月 ①	4,M05	疫病・葉かび病 予・治	フォリオゴールド	800～1,000倍 (葉かび病は800倍)	前日	2回	0日
	9B	コジウム類・アブラムシ類	チェス顆粒水和剤	5,000倍	前日	3回	0日
1月 ②	7	灰色かび病・葉かび病 うどんこ病 等 予	ケンジャフロアブル	1,500倍	前日	3回	1日
	-	コジウム類・アブラムシ類 ハダニ類・うどんこ病	フーモン ※野菜類登録	1,000倍	前日	-	0日
1月 ③	11	灰色かび病・すすかび病 葉かび病 等 予・治	ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000～ 3,000倍	前日	3回	1日
	6	コジウム類・トマトヒゲダニ ハダニ類・アブラムシ類・材ハダニ等	アフアーム乳剤	2,000倍	前日	5回	2日

かいよう病について

細菌性病害で、土壌伝染・種子伝染する。施設栽培では主に冬期に発生が多くなる。

葉が萎れ、徐々に黄化も見られるようになり、最終的には枯死する。なお、果実に病斑が発生するのは、ほとんどが露地栽培である。

現在登録農薬が少なく、使用資材の消毒、土壌消毒が主な対策となる。



兼商クプロシールド

かいよう病・疫病で使用可能！

- ▶ 無機銅フロアブル
- ▶ 細かい粒子で優れた効果！
- ▶ 汚れが少ない！
- ▶ 収穫前まで使える！
- ▶ 使用回数のカウント無し！



かいよう病・すすかび病・葉かび病：1,000倍
疫病：1,000～2,000倍